

日あ ばあ 土場

ノミを行きかう人たちのバラバラシンケン物語

2014.6 第2号

特集 アルコール病棟

佐藤 晋一 医師 森 幹 医師 野口 洋一 看護師 杉山 昌儀 看護師

専門病院での入院治療の重要性 広兼医院 廣兼 元太

場の必要性 安東医院 副院長 安東 毅

アルコール依存症になって良かった

NPO法人京都府断酒連合会理事長 山本 忠男

女性の依存症について

アディクションセンター 京都マック施設長 榎原 節子

いきいきいわくら

ガラスアクセサリー「ブルーメ」

医療法人 稲門会

いわくら病院

対談 GROUP DISCUSSION

4名のアルコール専門病棟
スタッフが語るアルコール依存症

否認の病

アルコール依存症は
回復する

自分に対する怒り

新しく生きる

もう一度

特集 アルコール病棟

佐藤 Dr 今回はアルコール病棟の特集ということですので、これを機にアルコール医療について多くの方によりよく知って戴けたらと思います。でも、あまりに入門的な内容になってしまつては面白くありませんし、一般的なアルコール依存症に対する啓発パンフレットのような話ではこの広報誌のコンセプトにも合わないと思いました。

そこでアルコール病棟にかかわる我々4人で日頃の実践について率直なところを語り合いたいと思います。その方がかえってアルコール医療のリアルな姿を知ってもらえるのではないかと思つたからです。では話の導入として、アルコール依存症の患者さんは対応が大変だという世間一般の見方について、我々の見解とも一致する部分から始めたいと思います。確かに入院治療において、患者さんとの対応でエネルギーを消耗した経験はすべてのスタッフが持っていると思います。そのあたり、改めて考えてみてはいかがでしょうか。



診療課長
アルコール治療病棟担当医

佐藤 晋一
Sato Shinichi

かかわりの難しさ

野口Ns 最初は自分自身戸惑つたし葛藤もありました。マイナスイメージを持つたりもしましたね。些細なことで攻撃されたり、ちよつと違つただけでとんでもないミスをしたようなつこみをされたりしたこともありま。指示物がほんの少し傾いているだけで指摘されたり(笑)、字が間違つていてもよく言われました。ミーティングが一分でも遅れると怒る人とか、逆にちよつと延長しても怒られたりすることもよくありました。

杉山Ns 確かに現場の人間としては毎日ピリピリしなければならぬ部分もあります。患者さんは瞬間湯沸かし器みたいにカッとして激昂される。そのなるとこちが何かできることもなくなつて、ただ受け止めるしかない、聞くことしかできないと感じる

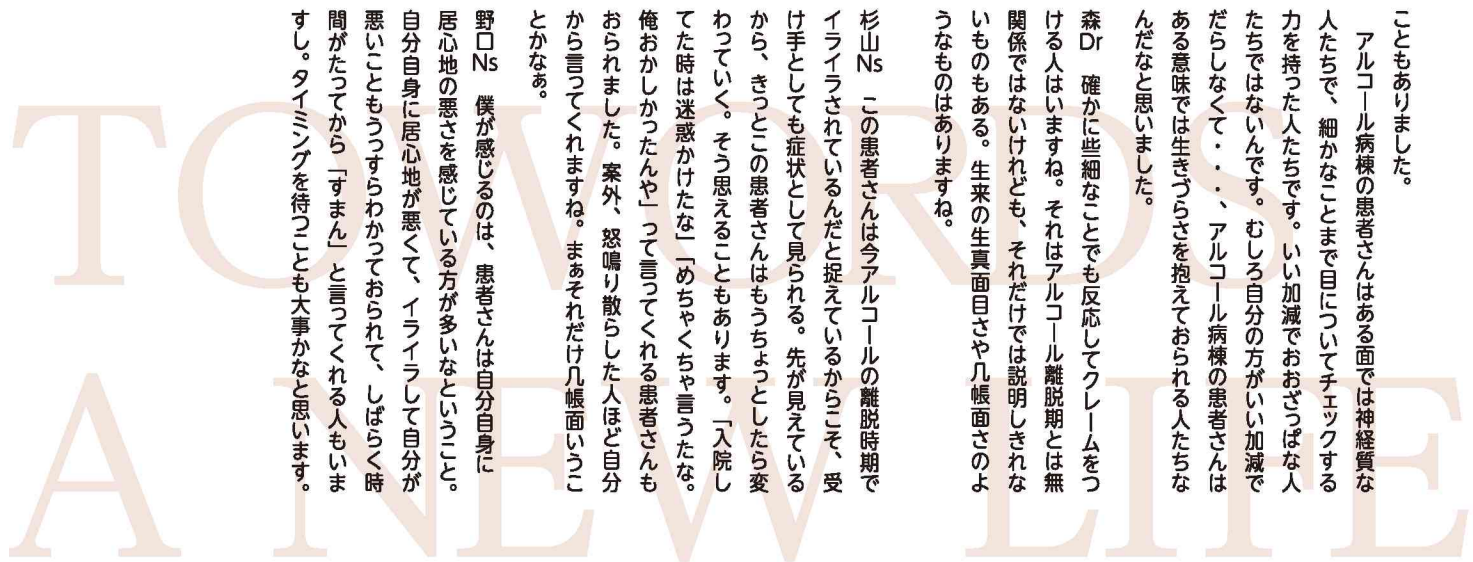
こともありました。

アルコール病棟の患者さんはある面では神経質な人たちで、細かなことまで目についてチェックする力を持った人たちです。いい加減でおおざっぱな人たちではないんです。むしろ自分の方がいい加減でだらしなくて・・・、アルコール病棟の患者さんはある意味では生きづらさを抱えておられる人たちなんだなと思ひました。

森 Dr 確かに些細なことでも反応してクレームをつける人はいますね。それはアルコール離脱期とは無関係ではないけれども、それだけでは説明しきれないものもある。生来の生真面目さや几帳面さのよくなものはありますね。

杉山Ns この患者さんは今アルコールの離脱時期でイライラされているんだと捉えているからこそ、受け手としても症状として見られる。先が見えていから、きつとこの患者さんはもうちよつとしたら変わっていく。そう思えることもあります。「入院した時は迷惑かけたな」「めちゃくちゃ言うたな。俺おかしかったんや」と言ってくれる患者さんもおられました。案外、怒鳴り散らした人ほど自分から言ってくれるですね。まあそれだけ几帳面いうことかなあ。

野口Ns 僕が感じるのは、患者さんは自分自身に居心地の悪さを感じている方が多いなということ。自分自身に居心地が悪くて、イライラして自分が悪いこともうつすらわかっておられて、しばらく時間かたつてから「すまん」と言ってくれる人もいます。タイムリングを待つことも大事なかなと思います。





アルコール認定看護師
内科合併症病棟棟師長
野口 洋一
Noguchi Youichi

アルコール治療病棟 病棟主任
杉山 昌儀
Sugiyama Masayoshi

回復への二歩

佐藤 Dr 患者さんが他者を攻撃する背景にはお酒のためにどうにもならなくなった自分がいて、本当は自分自身に対してイライラされていることの裏返しだとも言えますよね。

アルコール依存症が進行すると自分一人ではお酒を程よく飲むこともやめ続けることもできなくなります。しかし、このことは周囲の人たちにはわかってもらえません。家族や友人、仕事のことをまじめに考えれば酒はやめられるはずだと言われてしまうだけです。

森 Dr アルコール依存症の患者さんたちは自己肯定感が乏しくて、自己評価が不安定だといいますね。例えば物静かな方が物凄く誇大的な自己像を持っていたりする。逆に一見威勢が良くて大きなことを言うのに実は自己劣等感に悩んでいたりもする。

杉山 Ns だから程よい自己評価を持てるようになることが回復の目標のひとつなんです。それは素面で現実と取り組むことでしか得られないものだと思います。入院中にほんの小さなとっかかりでも得てもらえればと思っています。

野口 Ns いろんなきっかけがあると思うけれど、例えば水曜日に行っているフィールドワークなんかで自信を持つことができ、自分を取り戻すきっかけになった患者さんもおられます。1回目のフィールドワークではこうだった。2回目ではここまで出来た。3回目ではこんなことも出来たと言って退院を迎えられる方もいる。素面で楽しむことが出来たことが大

きいんです。それも一人じゃなくて同じ入院仲間と一緒に楽しめたという経験が貴重なんですね。

杉山 Ns アルコール依存症の患者さんは対人関係を損なってしまう方が多いですよ。家庭や社会で役割を失って引きこもり、孤立していた方が非常に多い。だから人間関係の回復が必要なんだけれど、そう簡単ではない。

佐藤 Dr 最初は皆さん、対人面での自信がない方がほとんどですよ。中には対人恐怖といってもよいレベルの人もいます。だから自助グループが必要なんです。同じしんどさをわかっている仲間の存在は大きいと思います。

杉山 Ns 自助グループに行くのも、やっぱり助け合っているんですね。患者さんはみんな不安をかか

えているけれど、「一緒に行く」と声をかけあっています。僕はその時点で自助グループとして成立していると思っています。職員は「行かないでください」と言っていてノルマを与えます。そうするとやっぱりまじめな人が多いなあと思うのですが、与えられたものは小さなあかんと、文句を言いながらも一生懸命がんばらるんですね。

更なる回復へ

野口Ns どんな人でもお酒をやめる治療があるというのを知ってもらいたいなあと思います。今までは飲むことしか選択肢がなかった人でも、やめるという選択肢があることを知ってほしいし、できることならそれを選んでもほしいと思います。

佐藤Dr ところで、本来アルコール依存症からの回復とは単にお酒を飲むのをやめていることではなくて、広く人間的な回復を意味する言葉ですね。僕なんかはお酒をやめているだけでも十分、と思ってしまうことも多いですが、皆さんは違いますか。

野口Ns 断酒後に患者さんの「家族の方から、「酒飲んでないだけであとは緒や」と言われたり、「こんなにイライラしてるのやったら飲んでもらった方が楽や」と言われると、やっぱりお酒をやめているだけではダメやと思います。お酒をやめることが自分を見直すきっかけにならないとダメなんです。

杉山Ns 家族を散々困らせた人が自分のやってきたことに気づき、反省して、信頼を回復できるうちに努力する。その変わりやうちはすこしなあと感じます

よ。

森Dr それまで「俺が、俺が」とすごく自己中心的やった人が、仲間のために動いたり、初めての人を断酒会に誘ってあげたりしますよね。あの優しさとか連帯感はずいぶんありますよ。

野口Ns ある人がね、酒のために友人が去り、家族が去り、とうとう自分に残されたのは酒だけになってしまった。暗がりの部屋でテレビつけて酒飲んでると「こんなに孤独が辛いとは思わなかった」と言っていました。断酒してからは幸運にも家族が戻って来てくれましたが、それまでと違ってすごく責任感を発揮してね、断酒仲間に対しても本当にやさしい方でしたね。

佐藤Dr 患者さんの回復を一緒に喜び分かち合えるところが大事やね。

森Dr 自助グループであれだけ真剣に向き合う姿を目の当たりにできることは、僕らにとってもすこ



アルコール治療棟担当医
森 幹
Mori Miki

く勉強になりますしね。

野口Ns クスリなしで体も精神も回復していけるというのがすごいなと思いますね。

杉山Ns 人はどん底からでも何度でも生まれ変われるんですね。生きている限りは何回でもやり直せるって。これも、すごく強烈なメッセージだなと思います。

野口Ns 回復した元患者さんが「アルコール依存症になってよかった」と言わはりますからね。最初は何のことかわからなかった。なんで病気になるようになったなんて言わはるんやろうと。最近になってようやく生まれ変わるきっかけをもらったっていう意味なんやとわかってきましたけど。

森Dr 和歌山断酒道場長が「すべての病気には意味がある」と言うてはりました。だから、その意味を見い出そうとせなあかんと。昔の酒害については水に流して過去は忘れて、前を向いて行きましょ、ではダメなんだと。過去の病気の意味を見い出す中にごそ、今の自分の存在意義も見えてくるのだと。

佐藤Dr 「過去はそのままではガラフタだが、磨けば玉石にもなる」と言うてはりますね。

杉山Ns そういう作業は自助グループでこそ可能なんですよ。あれだけ腹わって話をして、これだけ真剣にやっつてんだ、というのを見せられると僕らも力をもらえますよ。

野口Ns かつこ悪くてもいいんや。何度失敗してもいいんや。必ず這い上がってくるということが大事なんですな。

佐藤Dr 話は尽きませんが、今回はこのへんで。

専門病院での 入院治療の重要性

廣兼 元太



過度の飲酒が常習化し脳の働きに変化をきたした結果、適量で飲酒をコントロールする力を失うアルコール依存症。

本人は心のどこかで「まずい」と感じながら「この一杯だけ飲んで止めよう」と今日も深酒と孤立に陥り、家族は疲弊します。次々と表面化する飲酒問題は、本人の健康、大切な家族との関係、仕事での信頼に深刻な害をもたらします。

診断を告げると「やはり」と観念する人、つい最近まで自分は仕事をしてきた。その間のアルコールとは違うと強く抵抗する人とさまざまです。回復のためには、飲み続ければ進行し致死性だが断酒治療により回復が可能な病気として本人自らがこの病気を受け入れること。さらに治療を受け立派に酒を止め続ける仲間が大勢いるという事実を励みに、否認やあきらめから抜け出し、治療行動へ踏み出す決心を固められるよう、働きかけています。

治療は断酒が原則です。医療機関での継続的な治療と並び大切なのは、自助グループ(断酒会やAA)への継続参加です。酒を止め続けたいと願う本人どうしが集う自助グループで断酒の先輩や仲間と出会うことで、初期の「しびしび酒を止めさせられている、止めてやっている」というかたよった思いから「昔の飲酒当時の自分に戻りたくない、酒を止め続けたい」という自らの動機へという大きな変化が生じます。

とはいえ断酒して日が浅いうちは、ストレス状況に直面した時、飲酒以外の対処を選ぶことに本人はまだ不慣れなため、再飲酒が起こりえます。通院で断酒のきっかけがつかめない場合、専門治療プログラムを有するいわくらの病院での入院を強く勧められます。断酒が軌道に乗らず通院で難渋した人が、退院後は熱心に自助グループに参加し断酒に励ま

る。その姿を見て改めて専門病院での入院治療の重要性を実感しています。

広兼医院 廣兼 元太

GUIDE



広兼医院 待合所

どなたでもおこりうる、こころの健康の不調は、つらくても相談しにくく、まわりにも分かってもらいにくいものです。ひとりで悩まれるより、思い切って受診されてみませんか。早めの対応が肝心です

【 広兼医院 〒612-8048 京都府京都市伏見区大阪町 602 電話：075-622-3006 】





場の必要性

安東 毅

アルコール医療の専門クリニックで日々診療する中で、本当にたくさんの方の相談を受けます。特に最近では10歳代の男の子が自らインターネットで調べて来られたり、80歳代の女性が介護関係者に連れて来られたりと、老若男女問わず様々な方がアルコールの問題を抱えて来院されます。また、本人のみならず、家族、職場の同僚、地域の方、介護関係者、医療関係者など、周囲を巻き込む病気でもあるため、ご本人が来院されずに周りの方のご相談を受けることもしばしばあります。

アルコール依存症からの回復のためには、落ち着いて治療できる「場」が必要です。自身の病気を認め、病気の理解を深め、共に断酒を継続していく仲間を作る。そのための「場」として、いわくから病院のようなアルコール専門病棟や専門クリニック、断酒会・AAといった自助グループなどがあります。生きていく上でアルコールに頼らざるを得なかった方にとっては、断酒の酒のない新しい人生を生きる、というのは、人生の一大事業ではありますが、「こつした」場、に繋がることが、回復への第二歩となります。

また、この病気に巻き込まれ、悩み苦しんでいるご家族にとっても、相談をできる「場」が必要です。

平成25年12月にアルコール健康障害対策基本法が制定され、アルコール医療を取り巻く空気感が大きく変わろうとしています。高齢者、認知症のアルコール問題や、定年退職後のアルコール依存症、女性のアルコール依存症の増加や、発達障害・ギャンブル依存症などの合併など、アルコール依存症を取り巻く問題も多様化してきています。また、他にも飲酒運転や自殺との関連、妊娠中の飲酒による胎児性アルコール症候群、ひきこもりとの関連など、アルコールの有害な使用も広く認められています。

こうした様々な問題に対処するためには、アルコールは依存性の薬物であるということ、アルコール依存症は脳の病気だということ、また、アルコール依存症は回復可能な病気であるということなどを、たくさんの方に知っていただく必要があると思います。残念ながら、医療関係者の中でも「アルコールは治らない。言うことを聞かない。どうしようもない人達だ」という見方をされる方がまだまだ多いように思います。

安東医院 副院長 安東 毅



安東医院 デイサービスルーム

アルコール依存症は病気です。意志が弱いからやめられないのではありません。アルコール依存症という病気が、コントロールを失う病気なのです。当院では、病気についての正しい知識を身につけ、回復の道を歩まれるよう、様々なプログラムを用意しています。また、アルコール依存症のご家族の相談も受け付けています。

【安東医院 〒600-8155 京都府京都市下京区閻魔町下数珠屋町上 西玉水町279番地
電話：075-622-3006】

アルコール依存症に

なって良かった

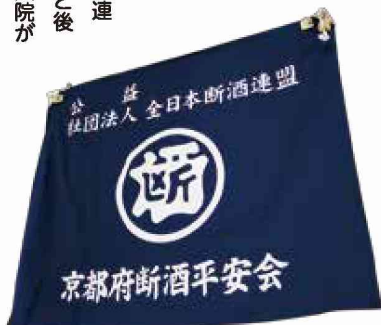
山本 忠男



山本 忠男
NPO法人京都府断酒連合理事長
京都府断酒平安会会長

桜の花の蕾が膨らみ始めたある夜、いつもの様に遅くまで酒を飲んでいたら私は、妻に愚痴を言われた。しかし、「酒を止めたくても自分の力では止められない。」と、妻に泣きながら訴えながらも、焼酎をあおっていた。その様子が異常さを感じた妻は、近所の断酒会員の家の門をたたいた。その家のご夫妻は「いつ来るか、待っていたんですよ。」と直ぐに広兼医院に連絡してくれた。

医者嫌いな私を無理やり車に乗せ、連れて行ってくれた家族は必死だったと後から聞かされた。即、右倉病院への入院が決まったが、どうしても片付けなければならぬ仕事があり、入院を五日程延ばしてもらった。焦って仕事をしようとしても、酒を飲まないと言いが書けない、飲むと酒は止まらない



かなり酔って仕事にならない。妻と息子に手伝わしてもらいやと終了。右倉病院で診察を待っていると昼になり、外でまたビールを飲んだ。看護主任さんに酒の匂いがしますが、正直に飲んで来たと言われたので入院して貰います。酒の匂いのする者は、入院させて貰えないということを後で知った。

病院での学習会、断酒会廻り、アルコール依存症の知識を得たが、「否認の病ゆえ、退院時も「飲んでもいい日を週二回作る」と言って退院した。しかし、断酒会に参加し、多くの体験談を聞かせて貰い飲んでもいいと決めた日も乗り越えられた。一人では止められない酒も仲間の体験談を聞き、自分の過去を振り返ることで、不思議と止め続けられている。ひっそりとした定年後の生活を送っている人の多い中、色々な人との出会いがあり、断酒継続・新生という目標のある生活が送れるようになったのは、アルコール依存症になり、右倉病院や断酒会に繋がらせて貰ったお陰と感謝している。



【定例総会】
酒をやめたい人、酒を止めなければならない人が集まり、毎晩各地で例会を開いています。
【本部事務局(山本 優 方)電話 075-221-5052】

家族を巻き込む病気

「夫が肝臓を悪くしても飲み続けている・・・」
「最近毎日のように昼間から飲んでる父。病院受診をすすめても拒否される・・・」
「身内の問題だから誰に相談していいかわからない・・・」等、家庭内のアルコール問題にお困りではありませんか？
アルコール依存症は家族を巻き込む病気です。家族が良かれと思ってやったことが逆効果になり、それらを続けることでますます病気を悪くして悪循環になることもあります。
家族が正しい知識や対応方法を身につけることが回復につながり、何よりご家族自身を楽にします。当院では家族教室を開催しています。

初期家族教室 第1・3水曜日 13:30~15:30
お困りの方はまずは相談員まで電話でご相談ください。電話 075-711-2171(代) (担当:堤・大森)

いわくから病院 家族会のご案内

女性の依存症について

榎原 節子



いわくから病院OBの榎原と
 言います。アルコール依存症
 で、いわくから病院の入退院を
 3回繰り返しました。その時は
 先生や看護師さんにはずいぶん
 御迷惑をおかけしました。揚げ
 足をとって、反発したり、文句を
 言ったりしました。それでも黙っ
 て聞いてくださっていた先生。文
 句を言っても、病院の食事を食べな
 い私に、おにぎりを作って下さった
 看護婦さんは今でも忘れていませ
 ん。退院後は京都マックでリハビリ
 をし、お陰様で19年間断酒し再発せ
 ず、現在アクションセンター京都
 マックの施設長として働いています。
 京都マックではアルコール依存症の
 他、ギャンブル・薬物・摂食障害等の
 依存症の回復プログラムをしていま
 す。

自助グループとは違い、依存症回復者
 スタッフ・精神保健福祉士・看護師が

依存症からの回復に必要な知識や方法を計
 画に沿ってリハビリしています。また医療や地域

の福祉機関・保健センターとも連携を取りながら、
 支援をしています。主な私の役割は女性の依存症の
 回復プログラムを、仲間と一緒に考えて、取り組んで
 いく事です。依存症から回復していく為には、まず止
 める事が第一です。

しかしながら、それだけでは回復できません。再発
 を繰り返します。特に女性の依存症者は多くの生き
 辛さを持っています。女性だけではありませんが、そ
 の生き辛さを楽にしていける事が回復には大切です。
 子育ての大変さ・仕事・生活・家庭・異性関係の問題・
 等々依存症の治療と共に解決していかないとまた飲
 んでしまいます。またDVや子供の頃の辛い思い出
 などが依存を止めたときに逆にしんどさとなって出
 てきます。依存が止まればよかった回復だと単純な
 事ではなさそうに感じています。

今後取り組まなければいけない課題も多くありま
 す。いわくから病院の先生方や他機関の方々にもご
 指導頂きながら、女性の回復・多様化する依
 存症の回復に当事者の目線できざる
 事を精一杯やっていけたらと思っ
 ています。



榎原 節子
 アクションセンター京都マック施設長



【ミーティングルームにて】
 仲間のお話を聞くと、これまで苦しんできたこと、今も苦しんでいるのが
 自分だけじゃないことがわかってきます。

〒600-8363 京都市下京区大宮通丹波口下ル大宮3丁目18番地
 かつらぎ平安ガスセンタービル3階 電話:075-741-7125

FOR WOMEN

場あ 6月1日発行 発行人：医療法人 稲門会 いわくら病院 広報委員会



右上：一つひとつ丁寧に作り上げていきます／左上、右下：初夏に向けた新商品／左下：好評の「赤のシリーズ」

いきいき・いわくら

就労継続支援B型施設

ガラスアクセサリー「ブルーム」

いきいき・いわくらでは、患者さんの社会復帰に役立てればという考えに賛同してくださっているガラス作家、岡本喜十郎さんのサポートを受け、病院の患者さんと一緒に「ブルーム」というブランドを立ち上げ、ガラス製のアクセサリー、ピアスなどを制作、販売しています。

岡本さんと患者さんが一緒に制作を始め、一年以上が経ち作品のレベルも上がってきています。高台寺かねの道にあるお店での販売に続き、今年に入って、大手通信販売会社でのインターネット販売が始まりました。ブルームのガラスアクセサリーは、オリジナル性が高く人気の商品となっています。



岡本喜十郎さん

1954年 京都市出身
1976年 立命館大学卒業
1977年 アメリカヴァンネスアートスクールでガラスを学ぶ
京阪電鉄宇治駅コンコース壁面の制作など多数のガラス作品を制作
現在までに個展、グループ展なども多数開催

「ブルーム」とはドイツ語で「花」を意味します。

いわくら病院の患者さんと一緒に作業し、作品を作り上げていくことでアクセサリーを買って戴いたお客さまにも作っている私たちにも心の中につばい「花」を咲かせたいという思いを込めて「ブルーム」という名前を付けました。

「いきいき・いわくら」では、作品作りで患者さんに過度な負担をかけないよう配慮がされています。いくら注文が入っていても、定時に仕事を始め、定時に終わります。患者さんが残業をすることはありません。

僕は一緒に制作している患者さんを指導しているという感覚ではなく自分も一緒に一緒に成長させていてほしいというように思っています。

ひとつひとつ作り上げてきた作品が、少しずつ世間で評価されていることは、励みになり、また勉強にもなります。今後、もっとたくさんの人たちに選んでいただけるようになればと願っています。



編集後記



表紙および挿絵紹介

今、アール・ブリュット（正規の美術教育を受けていない人の作品）が世界で注目を浴びています。

広報誌の表紙は、当院で長期療養中の方が、OT（作業療法）の中で描かれた作品です。作者が描くものを真摯に見つめる目は少年のように純粹で、正確に写し取り、迫力あるタッチの絵が毎回出来あがります。天賦の才能については、それがどう出てくるのか分からないところが楽しみでもあります。

高齢になられて体力的に衰えながらも、その才能にはますますの磨きがかかり、人の秘めた能力の素晴らしさを感じさせてもらっています。

いわくら病院 作業療法室

医療法人 稲門会

いわくら病院

日本医療機能評価機構認定病院

〒606-0017 京都市左京区岩倉上蔵町101 ☎ 075-711-2171 FAX 075-722-7898

http://www.toumonkai.net